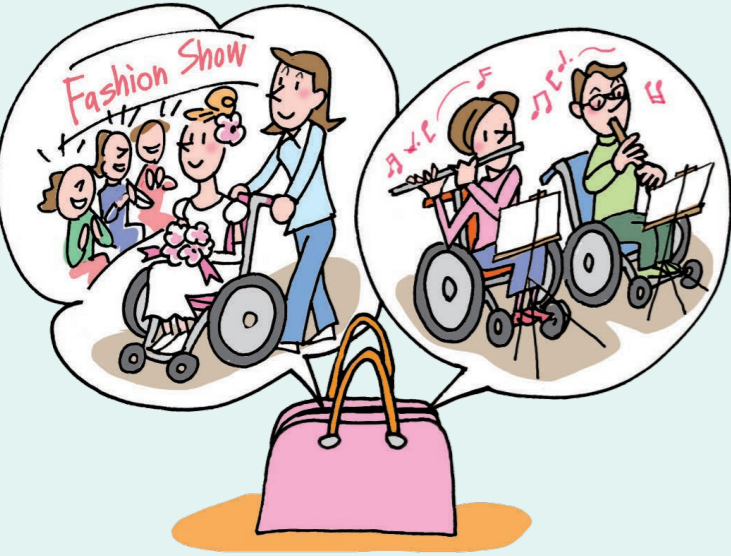


公明党市議団 第4回定例会 代表質問から

2020東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、文化プログラムへの取り組みを!

千葉の魅力いっぱいの文化・芸術を発信

オリンピックはスポーツの祭典であると同時に、文化の祭典でもあります。オリンピック組織委員会が求める文化プログラムについて、2020年東京オリンピック・パラリンピックの競技会場都市として、千葉市の文化プログラムの取り組みについて質問しました。



「今年度の新規事業である『車椅子アートプロジェクト』は、第2次千葉市文化芸術振興計画における東京オリンピック・パラリンピックに向けた重点プロジェクトとして、障がい者と健常者が共に出演する車椅子ファッションショーや車椅子ダンスパフォーマンスを実施し、本市の文化を発信するとともに多様性に対応した共生社会の実現を目指します。次年度以降については、ファッション・ダンス以外に音楽やアートなど他の文化芸術分野へ段階的な拡大を図り、本市の文化プログラムの中心的な事業となるよう検討して参ります。」と市長より答弁がありました。

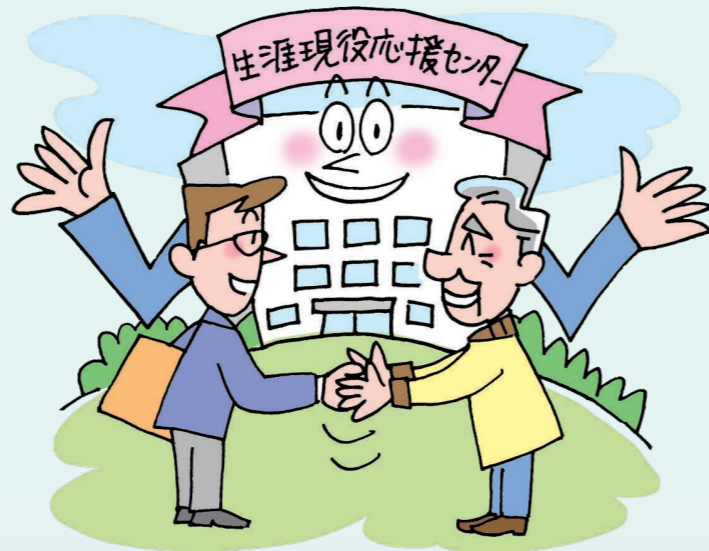
元気な高齢者の活躍する社会を!

(仮称)生涯現役応援センター設置へ

公明党市議団は、活力ある超高齢社会を築くため、地域や企業の支え手・担い手として高齢者が生涯現役で活躍し続けられるよう、元気な高齢者に対する施策展開を様々な角度から提言してまいりました。そこで、改めて生涯現役社会の構築に向けた取り組みについて、市長の所見を伺いました。

市長からは「高齢者の心身の状況に合わせた就労や地域活動など多様な生きがいに対応するため、高齢者個々の相談に応じられる窓口の設置や、一元的な情報提供の仕組みを構築することが重要と認識している。本市として、高齢者の社会参加を促す拠点として『生涯現役応援センター(仮称)』の設置について取り組んで行く」との答弁がありました。

これからもシニア世代のポテンシャルを活かした生涯現役社会の構築に向けて、各種施策を提言してまいります。



市地域経済を支える中小・小規模事業者を応援!

千葉市産業振興財団の取り組みについて

市内の経済を活性化させるために、中小・小規模事業者の「稼ぐ力」の強化が必要と考え、中央区きぼ一帯内にある産業振興財団の取り組みを調査しました。

今議会の代表質問では、産業振興財団の体制強化の現況と今後の取り組みについて伺い、更なる各支援機関との連携強化を求めました。副市長から「財団の支援機能をより一層強化していくとともに、地域企業が利用しやすい情報発信に努めていく」旨の答弁がありました。



産業振興財団の取組を調査



インキュベート施設に入居する事業者との意見交換

歩道橋のネーミングライツで財源確保!



道路施設の老朽化に伴う維持補修費が今後ますます膨らみを見せ、厳しい財政状況の中で新たな財源の確保が求められています。そこで、その取り組みとして、歩道橋へのネーミングライツ(命名権)の導入について伺いました。

副市長からは「財源確保だけでなく、ネーミングライツ契約者となるパートナーの選定条件に地域貢献活動に関する提案を加え、今後、対象となる歩道橋を選定したのち、応募条件や審査方法などをまとめ、年度内に公募を実施し、早期の契約を目指していく」旨の答弁がありました。

ドローン先端技術を消防救急に!

総務省消防庁から昨年3月に貸与された消防活動用無人偵察システム(消防用ドローン)が昨年10月から本格運用を開始したのに伴い、その整備、点検及び訓練の状況などについて、調査しました。

今議会の代表質問では、消防用ドローンの活用について尋ねました。副市長からは「消防用ドローンは、その特性から、消防隊員や消防ヘリコプターが活動できない場所での情報収集や人命検索など災害時の様々な消防活動に活用できるほか、切迫性が高いと考えられる首都直下の地震等の大規模地震に備えた対策として『被害を出さない』『被害を軽減する』など減災の視点から、急傾斜地の擁壁や河川の護岸の状況を確認するなど、平常時から防災対策全般に幅広く活用できるものと考えております。」との答弁がありました。

